

# 病院に勤務する男性看護師のレジリエンスの実態

—年代および臨床経験年数別での比較—

平田研人<sup>1)</sup>、前田貴彦<sup>2)</sup>、上杉佑也<sup>2)</sup>、古川陽介<sup>3)</sup>、辻本雄大<sup>4)</sup>、藤本泰博<sup>5)</sup>

1) 天理よろづ相談所病院, 2) 三重県立看護大学, 3) 名古屋市立大学病院  
4) 奈良県立医科大学附属病院, 5) 聖マリアンナ医科大学病院

## 研究目的

看護師は様々な逆境やストレスが生じる状況下でも、それらに立ち向かい、乗り越え看護を実践している。これら、逆境からの心理的回復力は「レジリエンス」と呼ばれている。近年、男性看護師は増加しているが、女性患者からケアを拒否される等、女性看護師とは異なるストレスや困難に直面している者も多い。そこで今回、男性看護師のレジリエンスについて、年代別および臨床経験年数別での特徴や傾向を明らかにすることを目的とした。

## 方法

**対象:** 全国の病院で、複数(2診療科以上)の診療科を有する施設から層化無作為抽出した950病院の内、本研究に協力の得られた422病院に勤務する男性看護師8,105名とした。

**調査方法:** 平成27年10月~平成28年3月に、無記名の選択式自記式質問紙調査を実施した。

**主な調査内容:** 年齢や臨床経験年数、看護師レジリエンス尺度(以下:尺度とする)を測定した。この尺度は、【肯定的な看護への取り組み(8項目)】【対人スキル(5項目)】【プライベートでの支持の存在(5項目)】【新奇性対応力(4項目)】の4の下位尺度で構成されている。評定は、「はい」の5点から「いいえ」の1点までのリッカートスケールで回答を求めている。なお、得点が高いほどレジリエンスが高いことを示す。

**分析方法:** 対象者の年代別(20歳代、30歳代、40歳代、50歳代以上の4群)および臨床経験年数別(1-2年目、3-5年目、6-10年目、11年目以上の4群)に分け、各項目の無回答を除き、一元配置分散分析(多重比較)を行った。

## 倫理的配慮

本研究は、研究代表者が所属する倫理審査会の承認を得て実施した。尺度の使用にあたっては、開発者の承諾を得た。なお、本演題発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業等はない。

## 結果

### 回答者の概要

**回答者:** 3,224名(回収率39.8%)

**有効回答:** 3,216名

**平均年齢:** 33.81±8.05歳

**平均臨床経験年数:** 9.98±7.35歳

### 病院所在地

中部地方 844名(26.2%)

近畿地方 707名(22.0%)

関東地方 642名(20.0%)

### 病床数

300-500床未満 1,224名(38.1%)

500-700床未満 717名(22.3%)

150-300床未満 686名(21.3%)

### 看護師レジリエンス尺度質問項目

#### 【肯定的な看護への取り組み 8項目】

- 私には看護職としての目標がある
- 看護の勉強をもっとしてみたいと思う
- 看護職として私の将来には希望がある
- 私は看護のプロとして日々努力している
- 看護職のいろいろな業務に挑戦してみたい
- 看護の仕事への興味や患者さんへの関心は強いほうだ
- 大きな責任を任せられたらがんばらうと思う
- 困難なことも、看護のプロとして成長に必要だと思う

#### 【対人スキル 5項目】

- さまざまなタイプの上司・同僚とそれなりに付き合える
- 嫌いな上司・同僚とも、「仕事」とわり切って付き合っていく
- 職場に新しい上司・同僚が入ってきてもうまくやっていく
- 気の合わない上司・同僚に合わせていくことは苦手だ
- つらいことがあってもなんとか仕事になる

#### 【プライベートでの支持の存在 5項目】

- 幼い頃自分に愛情を注いでくれる人がいた
- 「自分が今日あるのはこの人のおかげ」といえる人がいる
- 職場以外に愛情を注ぐ対象(家族・友人など)がいる
- 家族以外にも悩みを話せる人がいる
- わがままを聞いてもらえる人がいる

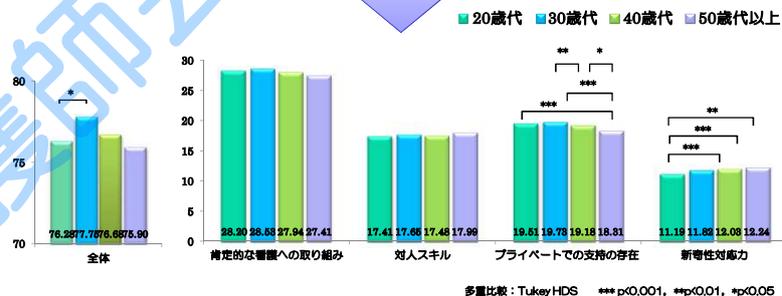
#### 【新奇性対応力 4項目】

- 新しい業務や珍しい仕事が好きだ
- 臨終時や急変時にも自分を落ち着かせることができる
- 慣れない仕事をするのは好きではない
- 新しい仕事を覚えるのは簡単だ

尾形広行、井原裕、大塚彰他: 総合病院における看護師レジリエンス尺度の作成および信頼性・妥当性の検討, 785-792, 精神医学, 52(8), 2010.

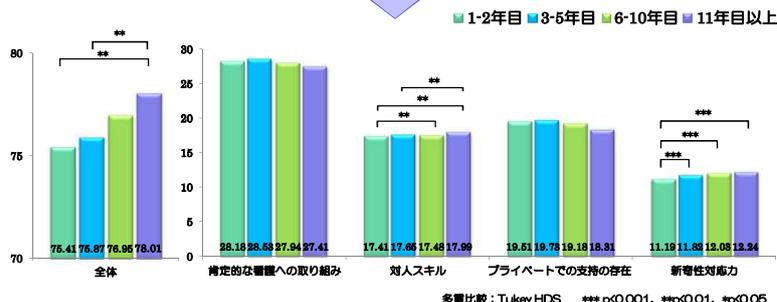
### 年代別比較

- 尺度全体の合計点の平均値は、30歳代が最も高く、50歳代以上が最も低かった。
  - 年代別では、30歳代が20歳代に比べ有意に高かった。
- 下位尺度に関して
- 【プライベートでの支持の存在】は、50歳代以上に比べ、他の全ての年代で有意に高く、30歳代は、40歳代と比べても有意に高かった。
  - 【新奇性対応力】は、20歳代に比べ、他の全ての年代で有意に高かった。



### 経験年数別比較

- 尺度全体の合計点の平均値は、11年目以上が最も高く、年代が下がるにつれ低下していた。
  - 経験年数別では、1-2年目、3-5年目に比べ11年目以上で有意に高かった。
- 下位尺度に関して
- 【対人スキル】は、1-2年目に比べ6年目以上で有意に高く、3-5年目に比べ11年目以上で有意に高かった。
  - 【新奇性対応力】は、1-2年目に比べ他の全ての年数で有意に高かった。



## 考察

全体として比較的年代や経験年数が高い者でレジリエンス得点が高い傾向にあり、看護や職場での経験値が影響していることが示唆された。特に有意差のあった【対人スキル】や仕事の新規性への嗜好といった【新奇性対応力】は、経験が豊かな者ほどよりよい対応ができたり、自己の自信が影響したりするため、年代や経験年数が高い者で得点が高くなったのではないかと考える。逆に、【プライベートでの支持の存在】は、年代が低い方で得点が高い傾向にあり、年代が低いも者は支持される側となり、年代が高い者では、支持する側の存在となることが多いことも影響していると推察する。